Vol.34 令和8年11月発行

久留米広域 消防だより





日常の風景の中に”命を守る備え“









身近な消防設備、いくつ知っていますか？

まちの安全を支える消防設備　知って、守って、備える

消火栓、誘導灯、防火戸、住宅用火災警報器…。
まちや建物の中には、火災を「早く見つける」「早く消す」、火災から「早く逃げる」ための設備があります。
普段は目立たないからこそ、いつの間にか“使えない状態”になりがち。
今回の消防だよりでは、身近な消防設備と、住民のみなさんに気をつけていただきたいポイントを紹介します。





身近な消防設備

私たちのまちには、火災を**早く見つけ**、**早く消し（初期消火）**、火災から**早く逃げる**ための設備がたくさんあります。
普段は目立たないけれど、いざという時に命を守る消防設備。今回は、よく見かける設備を紹介します。



火災を知らせる

自動火災報知設備・住宅用火災警報器

どんな設備？ 煙や熱を感知し、激しい音（ベルや音声）で火災発生を知らせるシステムです。





もしベルや音声が鳴り響いたら？ どう行動する？

❶まずは落ち着いて周囲を確認（火元の確認、煙や臭いがないか確認）
❷火の気がない場合（誤作動が疑われる場合）
➡念のため、安全な場所へ移動し、状況を確認。
❸火災が発生している場合
➡まず自分の安全を確保し、周囲に大声で知らせる。
すぐに119番通報し、住所・目標物・燃えている物・逃げ遅れの有無を伝える。
炎が小さければ消火器などで初期消火（無理は禁物）。
煙を吸わないよう姿勢を低くし、濡れタオル等で口鼻を覆って避難。
エレベーターは使わず避難、その後は戻らない。



初期消火

消火器（初期消火の主役）



役　割 火災が発生したとき、消防車が来る前に「初期消火」を行うための最も身近で強力な道具です。火災の初期段階（天井に火が届く前）であれば、消火器を使うことで、被害を最小限に抑えることができます。

ポイント 煙が多い場合や、火が天井に届きそうな場合は無理をしない（避難優先）。

ご自宅の消火器をチェック CHECK

- ☑ **置き場所は？** いざという時にすぐ取り出せる場所に！
- ☑ **本体の外観は？** サビが出ているもの、変形しているものは危険！ いざ使おうとした時に破裂する恐れがあります。
- ☑ **使えるか？** 使用期限確認！中身は使える状態か？ 家庭用消火器の寿命はおおむね5年～10年です。

屋内消火栓設備

どこにある？ 学校や商業施設、マンションなどの廊下や階段付近にある、赤いランプ（表示灯）がついた金属製の四角いボックス。

役　割 「消火器では消せない大きさの火事」を、消防車が来る前に建物利用者の手で消し止めるための強力な設備です。

＼バルブを開ける！／



屋内消火栓設備（1人用）の使い方



バルブを開ければ1人で伸ばしてすぐ放水可能。

屋内消火栓設備（2人用）の使い方



ホースを伸ばす人と、バルブを開ける人の連携が必要。

＼ホースはしっかり握って！／



早期避難

誘導灯（出口を示す命の道しるべ）

役　割 災害発生時、停電しても点灯し、出口・避難方向を示します。

ポイント 火災で危険なのは炎よりも煙。視界が悪い時ほど、誘導灯が「見える」ことが、速やかな避難につながります。



緑地に白
「非常口そのもの」を示す
（出入口の上にある）



白地に緑
「非常口の方向」を示す
（通路や階段にある）

まめ知識
誘導灯のマークには、「緑地に白」と「白地に緑」の2種類があります。避難する時は、まず「白地に緑（矢印）」を追いかけて進み、最後に「緑地に白」の扉から外へ脱出しましょう!

防火戸（防火扉）・防火シャッター（煙と炎を止める仕切り）

役　割 火災時に閉まって、延焼の拡大や煙の進入を防ぎます。

ポイント 煙は階段を駆け上がるスピードが非常に速く（歩くスピードの数倍）、吸い込むと酸素不足や一酸化炭素中毒で動けなくなってしまいます。防火戸は、煙を区切って避難時間をつくるための設備です。

避難器具（避難はしご・救助袋、緩降機など）

役　割 火災が発生した際、ベランダなどから安全に地上へ逃げ出せるように設置されている器具です。マンションやアパートにお住まいの方は、いざという時に使えるように、普段から「周辺の整頓」「維持管理」「使い方の確認」をしておきましょう。

住民のみなさんへお願い

避難時の安全を守るため、誘導灯や防火戸が正常に働くことが重要です。日頃から周囲の整頓と機器の点検にご協力ください。



消防水利

消火栓

どこにある？ 道路脇（マンホール型、地上式）、標識や黄色い蓋が目印。

役　割 火災のとき、消防車に水を供給するための「水道の蛇口」のようなものです。





防火水槽・採水口

どこにある？ 道路や公園、住宅街の地中などに設置されており、マンホールの蓋や看板に「防火水槽」と書かれています。

役　割 火災が発生した際、消防車が消火活動に使う水をためておく「巨大な水槽」です。







住民のみなさんへお願い

①消火栓の上や周りに、物を置かないでください。
②周辺への「車の駐車」は絶対にやめてください。
（法律で禁止されています）
消火栓の吸い込み口から5メートル以内の場所は、道路交通法で「駐車禁止」となっています。
車が上に停まっていると、消防車が水を取ることができず、迅速な消火活動ができません。



⚠ 空気が乾燥する季節　林野火災にご注意ください

毎年1月から5月までの間、空気が乾燥するなど林野火災が発生しやすい気象状況の時には、林野火災注意報・警報が発令されます。(対象区域：久留米市、うきは市、小郡市の森林)

今年5月、当消防本部管内でも、林野火災注意報発令中に山林火災が発生しました。

原因は小さな火種でしたが、約9ヘクタールを焼損する大規模な火災となりました。



1.前3日間の降水量が1mm以下+前30日間の降水量が30mm以下
2.前3日間の降水量が1mm以下+乾燥注意報発表

林野火災注意報 発令

→ たき火などの火の使用は**控えて**ください。

林野火災注意報発令+強風注意報発表

林野火災警報 発令

→ たき火などの火の使用は**禁止**です。

住宅用火災警報器　設置から10年経っていませんか？

住宅用火災警報器の寿命は、約10年です。

設置が義務化されてから10年以上が経過しているため、多くの家庭で電池切れや、電子部品の寿命による故障の時期を迎えています。「いざという時に鳴らない!」を防ぐため、10年を過ぎた警報器は、本体ごと新しいものに交換しましょう。



ご自宅の住警器をチェック!

- ☑ ボタンを押して動作確認(月1回程度)
- ☑ ホコリは乾いた布で軽く落とす(強い洗剤は避ける)
- ☑ 設置から10年を目安に交換(内部部品の劣化)

リチウムイオン電池の取扱いに注意!

スマートフォンやモバイルバッテリー、ハンディファンなどに使われるリチウムイオン電池を原因とする火災が増えています。

買うとき
賢く選ぶ

購入前に製品情報やマークの表示を確認して、安全基準を満たした製品を選びましょう。

使うとき
丁寧に使う

正しい使い方を常に意識するとともに、衝撃・高温を避け、異変を感じたら直ちに使用を中止しましょう。

捨てるとき
正しく捨てる

誤った廃棄方法は、ごみ収集車などでの火災事故につながります。安全と資源循環のために、正しい廃棄方法を守って捨てましょう。

もし発熱・煙が出たら

- ●火花や煙が激しく出ている場合は、絶対に近寄らず、周囲の人を離して安全な場所に避難します。
- ●自分で消火できるか迷う場合は、消火はせず避難と119通報を優先してください。
- ●火花や煙の勢いが収まってから、安全に対応できると判断できる場合のみ、大量の水や消火器で消火を検討します。



久留米広域消防だよりvol.34　編集・発行/久留米広域消防本部
〒830-0003　久留米市東櫛原町999番地1
TEL:0942-38-5151(代表)　FAX:0942-32-4603
e-mail:ksyousom@kouiki.kurume.fukuoka.jp　ウェブサイトアドレス https://www.fire-city.kurume.fukuoka.jp/